

今日の説教のポイント<創世記1章>

①クリスマスに向かって —— その始まりは創世記にあり

イエス・キリストの誕生をお祝いするクリスマス。しかし、それだけ聞いてもキリスト教を知らない人にとっては、何のことやらさっぱり分かりません。その意味を知りたければ聖書に向かわなければなりません。これから3回の礼拝で、聖書が何を語ろうとしているのかを見て行きたいと思います。まずはその始まり、創世記です。

②創世記1章のメッセージ1 —— 世界は神様が創られた

創世記は神様が6日間で世界を創造される様子を語っています。それは子どもが夏休みに朝顔の成長を傍で見てノートに記す観察日記とは違います。記した人も読む人もそんな風には思っていません。信仰の書である創世記1章が伝えようとしていることは、世界は偶然にできたのではなく神様が造られたのだということです。世界も私たち人間も意味なく存在しているのではないのです！

③創世記1章のメッセージ2 —— 神様と共に喜ぶために

では、私たちが存在している意味は何でしょうか？ 創世記1章の終りにはこう記されています、「神はお造りになったすべてのものをご覧になった。見よ、それは極めて良かった」(31)。神様が世界を造られ、それを見て満足され喜ばれているのが伝わってきます。神様は御自身のみで充足できるお方ですが、そうされるのではなく、御自身が造られたものと共にあることを喜びとする道を行くことを選ばれたのです。ですから、世界と私たちには神様に基づくはっきりとした存在理由があるのです。無意味な存在ではないのです！

④キリストの誕生 —— 再び神様と共に喜ぶために

神様と喜びを共にして生きる、それが私たちの本来の人生です。しかし、私たち人間は飼う者のない羊のように神様から離れて行ったのでした(イザヤ書53章6節、創世記2~3章)。けれども、神様はそんな私たちを見捨てず、ついに神様の独り子イエス・キリストをお与え下さり、私たちがもう一度神様に立ち帰り、神様と共に喜んで生きられる道を備えて下さったのです！ どんな人でも、この神様の下に立ち帰る時に、神の国まで続く新たな人生が始まり出すのです！